

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価		評価									
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	学生の目的意識や基礎学力により、習熟度に差はみられるものの、座学や農場実習による専門知識、技術等の習得及び寮生活、プロジェクト学習により協調性、社会性、自主性を磨くなど、目標に沿った人材養成が図られた。 農大改革2年目となり、農業者育成という農大の位置付けが明確となった。 新コースは全員が就農し、既存コースでは就農意欲や学習意欲の向上が見られ、12月中旬に全員の進路が内定した。		B									
	今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価									
	農業大学校改革の着実な推進による長野県農業を担う人材の育成と就農者の確保を促進する 1 授業内容の充実を図り、既存コースのカリキュラムを見直すとともに、農業実践教育を通じて、自立した社会人を養成する。	○ 3観点の導入や実物、パワーポイント、中間テスト、アンケート等により、授業の充実に取り組んだ。 ○ 既存コースカリキュラムの見直しを行った。 ○ 農業・農村の担い手となる新社会人40人を送り出す。既存コースは全員の進路が内定した。 【既存コース学生の進路】 <table border="1"> <tr><td>内訳</td><td>人数</td><td>比率</td></tr> <tr><td>就農</td><td>7名</td><td>20.6%</td></tr> <tr><td>就職</td><td>27名</td><td>79.4%</td></tr> </table>	内訳	人数	比率	就農	7名	20.6%	就職	27名	79.4%	・引き続き授業充実に努める。	B
	内訳	人数	比率										
	就農	7名	20.6%										
就職	27名	79.4%											
2 実践経営者コースの運営を円滑に推進し、平成28年度入学者の確保に努める。	● コース運営と就農支援の連携が十分でなかった。 ● カリキュラムの課題が明らかになった。 ● 定員10名→応募者8名→合格者5名	・職員間の連携によるコース運営。 ・課題を踏まえたカリキュラムの見直し。 ・効果的な募集活動の実施。	C										
3 セミナーの開催などにより、学生の就農率向上に努める。	○ 農業法人合同説明会、就農促進セミナーの開催、インターンシップ参加学生の増加等により、法人就農へ結び付いた。既存コース就農率20.6%(前年15.7%)	・引き続き効果的な就農支援に努める。	B										
4 農大の魅力情報の発信に努める。	○ 新たなホームページを開設した。 ○ プレスリリース、県魅力発信ブログ等で積極的に情報発信したことにより、新聞やテレビ等で報道された。	・引き続き効果的な就農支援に努める。	A										

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価																				
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等により学生の理解度の把握や学生へのアンケートの実施、授業見学期間(10月)を設定して他の教授の授業を見学するなど、授業内容の充実、研究が図れたか。	○ 授業充実状況 <table border="1"> <tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">充実率</th></tr> <tr><th>H27</th><th>H26</th></tr> <tr><td>3観点による授業</td><td>96%</td><td>60%</td></tr> <tr><td>実物を用いた授業</td><td>67%</td><td>68%</td></tr> <tr><td>パワーポイントを用いた授業</td><td>44%</td><td>50%</td></tr> <tr><td>中間テストを用いた授業</td><td>17%</td><td>14%</td></tr> <tr><td>その他の取組み</td><td>90%</td><td>74%</td></tr> </table> ○ 学生への授業アンケートを1月に実施。 ● パワーポイントなどを用いた授業では、見ることで理解したと誤解しやすく、ノートをとらせる工夫も必要。 ● 授業見学は個々の職員の授業時間とも重なり、体制が整わなかった。	項目	充実率		H27	H26	3観点による授業	96%	60%	実物を用いた授業	67%	68%	パワーポイントを用いた授業	44%	50%	中間テストを用いた授業	17%	14%	その他の取組み	90%	74%	・アンケート結果を踏まえ、授業内容を充実。 ・各教授が工夫している点を会議で紹介するなどして、授業を充実。	B
			項目	充実率																						
				H27	H26																					
			3観点による授業	96%	60%																					
			実物を用いた授業	67%	68%																					
		パワーポイントを用いた授業	44%	50%																						
		中間テストを用いた授業	17%	14%																						
		その他の取組み	90%	74%																						
		○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、より良い学校づくりの参考にしたか。	○ 個人面談や自治会役員会、個々のコミュニケーション等を通じ要望等を把握し、必要なものは改善した。	・引き続き適宜要望を把握し、的確に対応。	B																					
		○ プロジェクト活動の進捗に併せ、同コース1年が見学できる機会を設けたか。 ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を取入れたか。 ○ プロジェクト生産物を自ら販売し、経営感覚を学べるよう販売体験機会を増やすなど改善が図られたか。	○ 各コース毎に1年生のプロジェクト巡回を実施した。 ○ 2年生全員が経営評価を取入れ、収益性把握の必要性が認識できた。 ○ 1年生についても、プロジェクトにおいて経済性の検討を行うよう指導した。 ○ 農大マルシェ(6回)、千曲川マルシェ、農大祭で積極的に販売できた。	・引き続き1年生のプロジェクト巡回や管理作業の手伝いなどを各コースで実施。 ・経済性の検討について、労働時間の把握など一層のレベルアップを図る。	B																					
○ 現場で使える知識、技術、時代変化に対応した授業内容に教授要目を見直す。 ○ 教授要目に基づき、H28年度の授業カリキュラムが編成、展開ができたか。	○ 現場で課題となっている事項や対応、今日的话题などを授業に取り入れた。 ○ 学科目や授業内容の見直しを踏まえ、28年度教授要目、授業カリキュラムを編成中。	・引き続き現場や状況変化を意識した授業に努める。	B																							
○ 各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、授業を改善できたか	○ 毒劇物取扱者等の資格や大型特殊等の免許取得、農業技術検定の受験等を勧めた。 ○ 毒劇物取扱者資格は、授業の中でドリルと過去問模試を増やし、合格率が向上した。 ● 農業技術検定3級、危険物取扱者の合格率は低下した。	・資格試験や検定試験の受験を奨励するとともに、農業簿記の授業の一環として農業簿記検定の受験を検討。	B																							
既存コースカリキュラムの充実を図る	○ 農業経営に必要な知識を習得させ、円滑な就農に結び付けるため、既存コースのカリキュラム見直しはできたか。	○ 28年度から既存の5コースを農業経営コースとしてまとめ、既存のコースを専攻とする。 ○ 円滑な就農に結び付けるため、学科目の見直し等を行い、28年度入学生から適用する。	・カリキュラム見直しの効果把握に努める。	B																						
実践経営者コース運営の円滑化を図る	○ 実践経営者コースのカリキュラム、講師、授業計画、選抜方法などコース運営が円滑に推進できたか。 ○ 客員教授によるプレミアム講義や外部講師による専門的実践的講義により、農業経営者に求められる4つの力を身につけることができたか。 ○ 模擬経営を通じて、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。 ○ 就農支援スタッフによるきめ細かな就農支援が実施できたか。	● 学生の経歴や求めるものが多様で、コース運営の課題がある程度明らかになった。 ● コース運営と就農支援が一体的にできなかった。 ● 4つの力の資質は身についたが、就農時の栽培品目が模擬経営と異なる学生もあり、技術習得がやや不十分な学生も見受けられる。 ○ 模擬経営や就農計画作成を通じて、就農後の資金や労力確保等について検討できた。 ● 就農支援の工程管理が不十分であり、また、前半に模擬経営と就農準備が重なったことから就農支援が遅れた。	・コース運営と就農支援との連携強化。 ・コースの課題を踏まえ、学科目の見直し等を行い、28年度入学生から適用。 ・就農時の栽培品目について早期に決定し、効果的な模擬経営を実施。 ・学生の就農形態に応じた個別、計画的支援。	C																						
効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ場面積やハウス等を用意する。 ○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 各コースとも効率的・計画的な農場利用による効果的な授業ができたか。 ○ 1年生は、授業実施計画に基づく作付と効果的な活用ができたか。	○ 実習やプロジェクト活動に必要なほ場、施設は確保できた。 ○ 実践コース2年生の模擬経営ほ場は、小諸キャンパスや学生の自家ほ場活用により確保した。 ● 1年生は実習時間が少なく、適期に必要な実習ができない場合があった。	・引き続き実践と既存コースとの調整を図るとともに、新たなほ場確保について検討。 ・カリキュラムの見直しにより、1年生の実習時間を増やす。	B																						

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価
教育活動	学習指導	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 各コース別の年間作付け計画に沿った農場管理ができたか。 ○ 農場管理マニュアルの更新や家畜管理マニュアルの整備により、適切な休日の農場管理が実行できたか。	○ 各コースとも、概ね年間計画に沿った管理ができた。 ● 果樹は成園化による生産量増等により、一部作業が適期にできなかった。 ● 早期にプロジェクトが終了するほ場の有効利用が必要である。 ○ 農場管理マニュアル、家畜管理マニュアルを整備、家畜の頭数等により必要に応じ更新し、適切な管理ができた。	・特別教授の弾力的な業務分担の検討。 ・作物の収穫時期を踏まえた作付け計画の検討。	B
		進路指導	○ 1年生は10月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 ○ 2年生は2月末を目途に就農及び就職先等決定するよう指導できたか。 ○ 円滑な就農に向け、就農演習を計画的に実施できたか。 ○ 就農促進セミナーや法人合同説明会、法人就農リストの作成等を通じ円滑な就農への取組みができたか。 ○ 法人とのマッチングの仕組みは検討されたか。	○ 1年生は、個人面談や三者面談、実習中のコミュニケーション等により希望を把握し、進路の方向づけができた。 ○ 2年生は、個人面談、三者面談等により、進路希望を把握した。早目の進路決定に向けた活動を促し、12月中旬に全員の進路が内定した。 ○ 就農演習では、講義、視察、演習を実施した。 ○ 計画した事業は実施し、就農意欲の維持、法人とのマッチングが図られ、法人への就農に結び付いた。 ○ 就農支援プログラムを策定中で、その中で法人とのマッチングの仕組みも検討する。	・引続き早期の進路決定を指導。 ・円滑な就農のため就農演習を充実。 ・就農支援プログラムに基づく就農形態に応じた個別支援。	A B
	生活指導	就職・進学情報の提供	○ 学内掲示板、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。	○ 学校に対する求人情報を随時掲示するとともに、ホームページ等でも周知した。 ○ 必要に応じて個別に情報提供した。	・新たに整備したホームページの学生向けページを活用するなど、引き続きタイムリーな情報提供に努める。	B
		社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	○ 交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 学年担当会議の定例化により教授間の情報共有、対策の検討が図られ適切な指導ができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 ○ 学生部の打ち合わせが定期的に行われ、情報共有・役割分担の明確化が図られていたか。 ○ 教授間の情報共有と全員で指導する体制ができたか。	○ 交通安全・防犯研修会、健康講座により、生命尊重等の啓発を行った。 ○ ホームルームの前に学年担当職員の会議を開催し、学生の生活などの情報共有や対応の検討を行った。 ● 男子寮において、消灯時間が守られないなど規則違反があったが、社会人としての意識の改善は見られる。 ○ 学生会会議を月1回開催し、教授間の情報共有や役割分担、指導体制を確認した。	・引き続き各種講座や学年担当職員会議等を開催。 ・職員全員による指導を強化し、社会人としての意識を一層高める。	B B
	教育設備の充実と適正な管理	自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	○ 寮生活を通じ、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 新寮での自立性、協調性を高める工夫が検討されたか。	● 実践と既存コースとのカリキュラムの違い等により、十分交流が図れなかった。 ● 自治会の自主活動はあまり活発でなかった。 ○ 女子寮では寮生活の改善点を取り決めるなど、自主的な活動ができた。	・学校行事に実践コースも参加させるなど、交流機会を検討。 ・自治会専門部を定期的に開催し、活動を強化。	C
			農業機械や施設機器の充実と適正な管理	○ 水利組合と連携して水源確保に努めたか。 ○ 予定された農場実習等の農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。 ○ 農業関連企業との連携や職員研修の実施により、導入した農機・設備の効率的な利用ができたか。 ○ 農業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営は行われているか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。 ○ 実習棟・機械庫等は、定期整備日の設定などにより整理整頓がなされているか。	○ 水利組合との連絡調整により、水源確保を図った。 ○ 必要な機械・設備の有無を点検し、必要なものは確保されている。 ○ 農機メーカーとの連携授業等により、機械の効率的利用に努めた。 ○ 修理は適切に行い、故障、修理情報を掲示板に表示し、情報共有を図った。 ● 機械使用簿を整備したが、使用簿への記入や使用後の機械洗浄は徹底できなかった。 ○ 使用できない機械は適宜廃棄した。 ● 実習棟は、各コースの部屋は整理整頓されているが、共用部分が不十分であった。 ○ 機械庫は月1回を目途に定期的に整理整頓した。	・水田の漏水、排水対策などほ場改良。 ・職員研修の実施などによる機械の一層の効率利用。 ・教務会議等で指示し、使用簿への記入、洗浄後の格納を徹底。 ・実習棟についても定期清掃日を設け、整理整頓を実施。
		学校用地や施設の適切な維持管理	○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。	○ 月1回、校舎及び寮の清掃を実施した。 ○ 本館1階男子小便器の再水洗化修繕を実施して、衛生環境の改善を図った。 ● 施設の老朽化が進み、要修繕箇所が多くなっている。	・自治会主体に定期清掃を実施するよう指導。 ・続き可能な箇所から施設修繕を実施。	B
		学校運営	農大の魅力発信と学生確保の活動	○ 学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ 実践経営者コースは、大学、普及センター、市町村、農協及び県内外の相談会等あらゆる機会を通じて、情報提供ができたか。 ○ 実践経営者コースの平成28年度入学者10名が確保できたか。 ○ 既存コースは、新たな観点から広く県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭へは民間企業ガイダンスを活用し理解を深めると共に、生徒にとって必要なアドバイスができるよう情報提供を行ったか。 ○ 既存コースの平成28年度入学者の定員確保ができたか。	○ オープンキャンパスポスター、学生募集ポスター、学校案内、入試案内を県内外の高校に配布した。 ○ ポスター等に在学生の写真を使用したり、学校案内のスタイルを全く新しいものにして関心を引くよう努めた。 ○ 記載のほか、ラジオや新聞等による広報を実施した。 ○ 1次の応募状況を踏まえ、県内外でのコース説明会を開催した。(5回) ● 定員10名→応募者8名→合格者5名 ○ 入学者確保のため、入試日程を早め、一般入試を前期、後期とした。 ○ 訪問校の選定を見直し64校に訪問した(H26、57校)。推薦・一般入試合わせて、過去5年間に実績のない13校から合格者が出た。 ○ 高校の進路ガイダンスには極力参加し、本校の紹介や関心ある生徒の受験を促した。(10校) ○ 推薦・一般入試により、定員の確保はできる見込み。 定員40名→応募者62名→合格者44名	・来年度の学生募集用学校案内の作成を早期に着手するなど、本校への関心が高まる方策を検討実施。 ・コースを県民や潜在的入学希望者に知ってもらう広報活動を検討。
	ホームページの充実を図る			○ 魅力的なホームページに改善できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援を、農業関係者、教育関係者や広く県民に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。	○ 魅力的な情報を発信するため、専用サイトによる新たなホームページを開設した。 ○ 学生募集や授業等を積極的に広報した。 プレスリリース18件、県公式サイト19件、魅力発信ブログ20件、新聞記事掲載13件、テレビ・ラジオ報道6件。	・専用サイトは、各コースの教授が積極的に発信するよう努める。 ・今後とも、農大の魅力発信の充実を図る。
	その他		○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場はコース別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	○ 農場はコース別に、管理運営費は費目別に整理した上で教務に毎月情報提供し、計画的な予算執行に努めた。	・引き続き、効率的な予算執行に努める。	B